

(3) 現計画以外に考えられる候補案の机上検討結果

前波地点において現足羽川ダム計画での洪水調節機能を満足できる案について、既往の資料等から机上で検討した結果をもとに、水没戸数と湛水面積を指標として比較した結果は以下のとおりです。

表-5.6 候補案の比較

候補案検討ケース	具体的な候補案	水没戸数 (戸)	湛水面積 (km ²)
3ダム組み合わせ案	部子川ダム・志津原ダム・芦見川ダムの3ダム	約 90	約 3.0
「ダム+導水」案	部子川ダム+水海川・足羽川本川・割谷川・赤谷川の4導水	約 50	約 1.8
現足羽川ダム計画	現足羽川ダム（都市用水を除く）	約 210	約 2.7

これらの比較により、「ダム+導水」案が3ダム組み合わせ案より水没戸数が少なく、湛水面積も少ないことがわかりました。

以上のことから、水没戸数を極力少なくするという観点からの可能性のある候補案としては、「ダム+導水」案の部子川ダム+4導水（水海川・足羽川本川・割谷川・赤谷川）とすることにしました。

この候補案を、現在の足羽川ダム計画と比較すると、水没戸数は約25%に、ダム建設による貯水池の面積は約65%程度になります。

また、導水施設による土地の改変も面積的に少ないことから、自然環境への影響も軽減できると思われます。

しかし、経済性の面からは、ダム以外に導水施設が必要なため、事業費は現足羽川ダム計画に比べ相当増えることが予想されます。